

学校法人相愛学園

理事長 相 田 芳 久 様

令和元年度

学校関係者評価委員会 活動報告

学校関係者評価委員会 代表

渡 邊 徹

令和2年3月12日

令和元年度

焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

□ 本日の出席者

渡 邊 徹	委員長	(学識経験者)	
松 永 美津代	委員	(学園 監事)	
久保山 秀 美	委員	(学園 評議員)	
小 林 香代子	委員	(焼津市立焼津南小学校長)	
新 村 元 基	委員	(保護者)	
竹 内 知 子	委員	(保護者)	以上 6 名

□ 本日の日程

10 : 30 年間事業概要と園内自己評価結果の報告

11 : 10 園内環境見学・保育見学

12 : 00 昼 食 (給食試食)

12 : 30 関係者委員 協議

13 : 00 協議内容のまとめ

13 : 20 終了・解散

学校関係者評価委員会 評価内容まとめ

□ 教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育の4つの柱

- | | |
|-------------|-------------|
| 1、じょうぶなからだに | 2、いのちをたいせつに |
| 3、やるきのあるこに | 4、よくかんがえるこに |
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
 - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらっての造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらっての体育指導、野外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 集団生活の中で、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら主体的に生活していく姿を育む (継続)

- ・ 幼児理解を深め、個あるいは集団の育ちを丁寧に捉える
- ・ クラスや友達同士などの集団の中で、その子なりの思いや意欲、力が引き出せるよう援助・指導を工夫していく
- ・ 相手の思いにも気づき、友達との生活を楽しむことができるようにしていく

- ② 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう、環境を整え、防災について計画や振り返りを心がける (継続)

□ 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況・反省と改善策
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭において指導・援助がなされたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度においても本園の目指す方向を教職員間で共通理解・再確認しながら、指導計画の作成・実施を進めてきた。 ・ 指導計画の作成に当たっては、期の節目や教育行事などの際に、指導の振り返りや子どもの成長・課題等について共通理解を図りながら、全体の発達と個の発達、両方の様子を捉え、生活リズムに配慮し、計画・実施してきた。 ・ 実践の振り返りについては、子どもの育ちを『幼児期の終わりまでに育てたい10の姿』に照らし合わせながら進めた。 ・ 主体的な子どもの姿を目指し配慮して保育を進めてきている。園内研修では、全てのクラスで園内公開保育を行い、その都度、参観の視点を明示しつつ、子どもの育ちや主体性を育てるための保育者の関わりや援助について、付箋を使ったワークをしながら

<p>② 一人ひとりの幼児の 思いや表現を大切に し、保育者それぞれ が、個に応じた指導・ 援助を工夫していた か</p>	<p>A</p>	<p>ら協議を持った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で、共通理解しているつもりであっても教員によって方法が違ったりすることがある。その良さや課題を知るために、フリートークの時間を設け、さらなる情報交換や意見交換に取り組み始めた。 ・主体性を育むための保育環境という点では、もっと工夫が必要であるという課題が残る。 ・年齢相応の自己表現や自己発揮ができるよう、一人一人の思いや姿に合わせた関わりを心がけている。子ども主体の保育を考えているものの、保育者としての援助の度合いについては迷いもあり、教員のキャリアが違えばなおさらである。指導や援助すべきところをきちんと押さえながらも過剰な援助とならないよう配慮していきたい。 ・子ども達の表われも様々で個別の援助を必要とする子が増えてきている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。市の巡回相談や保育所等訪問支援事業等も活用させて頂き、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたってきている。保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。
<p>③ 園内の施設・設備環 境、防災対策が、幼児 の安全快適な生活を 保障するものとなっ ているだろうか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の遊具等は、日常的な目視や点検を行いながら安全に努めている。ただ、経年劣化の遊具も増えてきて、今後の使用の仕方については検討が必要であると感じている。 ・避難訓練については津波避難に特化した訓練を進めながら、反省が出れば次回に活かすよう実施した。火災訓練では、火災による避難の訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。 ・衛生面で、ノロウィルスやインフルエンザ等の流行病に備え、学園の養護教諭の指導の下、教員や保護者への情報伝達や対応の共通理解を図ってきた。健診等で気になる様子が見られた場合は保護者への伝達も注意を払い伝えるように配慮している。

□ 協議・評価の観点

1. 幼稚園での活動や行事が、幼児の発達に即した内容・方法によって適切に運営されているか
いきいきと生活し、主体性を育むことにつながっているか (評価項目①)
2. 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切にし、個に応じた指導・援助が効果的に実施されているだろうか (評価項目②)
3. 園内の施設・設備環境等が、幼児の安全快適な生活を保障するものとなっているだろうか (評価項目③)

□ 学校関係者評価委員会の評価・意見 □

観点1 についての評価

- ・ 確かな園目標に沿って、一つ一つの行事、営みが園児を育てている。たとえば『がんばりハイク』では、家を出るとき「がんばるぞ!」、帰宅すると笑顔で「友達とがんばってきたよ!」と語る姿に感動したという保護者の声。その背景に、園長を中心としたベテラン教師を若手教師の共通理解が図られ、ダイナミックな保育が展開されていることがあげられる。

評価： A

観点2 についての評価

- ・ 「先生方が全員の子どもを把握してくれている。」という保護者の声に象徴されているように、ベテラン教師の経験から身に付けている園児一人一人への理解と指導が、若手教師の指導力を高めているのではないか。ふだんの個に応じた声かけが、子どもの表情を明るくし楽しい雰囲気をかもし出している。

評価： A

観点3 についての評価

- ・ 空き教室の利用にも創意があり、園児の気づきを期待する掲示物の工夫が見られる。安全への配慮も行き届いている。望むことは、園児の夢を育てる環境の創出に努めたということ。

評価： B

その他の特記すべき事項として

- ・ “伝統”の確かさと重みを痛感する。

以上、学校関係者評価委員会全体の意見として、提出いたします。

令和元年度 焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

委員長

猿邊 徹 